

# 親子水入らず 笑「GAO」で 愉しむ水族館！

体験した人／幸田 慧くん(13歳)、路広くん(11歳)、敦さん、ひとみさん



夏の男鹿の海をイメージした「男鹿の海 大水槽」。アクリルの厚さは、なんと49cm!! この中には、30種類2,500匹の水生生物が泳いでいます。

路広くんは、「マフアザラシ」イカサのなつこさが、お気に入り!



磯の生き物に触ることができると、タッチプールで、アメフラシを手に乗せるおあきさん。路広くんは「わいわい」手を叩きます。



「男鹿の海 大水槽」のバックヤードから、家族全員で餌やりチャレンジ。はたして、魚たちは寄ってきてくれるかな?



サンゴ礁の水槽には、優雅に泳ぐ熱帯魚や色鮮やかな魚を眺めたヤドリカ。見ていると、何だか心が和む。



男鹿名物「なまはげ」をモチーフにした「なまはげスーツ」。飼育員が水槽に入る際に、このウェットスーツを着用します。



体験後は、水族館オリジナルのソフトクリームで乾杯!(写真左から、ごまふあざらしソフト[ごま味]、ペンギンソフト[ブルーハワイ味]、しろくまソフト、ジャージーソフト各280円)。路広くんが持つ「しろくまソフト」は、男鹿産の塩を使ったイチ押し商品!



やっぱりぬいぐるみの方が、触り心地が良いかも。



**男鹿水族館 GAO**  
秋田県男鹿市戸賀塩浜 TEL.0185-32-2221  
開園時間  
(7・8月) 8:30~18:00 ただし8/12~16は、19:00まで  
(9・10月) 9:00~17:00  
※その他の開園時間については、水族館にお問い合わせください。  
入館料金 一般(高校生以上)1,000円 / 小・中学生 400円  
休館日 12/14~3/8の毎週木曜日  
(ただし12/28・1/4・1/11は営業)  
※1/22(月)~2/2(金)はメンテナンスのため休館  
★今回ご紹介したバックヤード見学は、現在は行われていませんが、その他にもたくさん楽しいイベントが行われています。なまはげダイバーのイベントについてもお問い合わせください。  
詳しくは、ホームページでご確認ください。  
<http://www.gao-aqua.jp/>



**アクセス**  
●車／秋田自動車道昭和男鹿半島ICから国道101号・なまはげライン経由で約60分。秋田自動車道昭和男鹿半島ICから国道101号・おが潮風街道経由で約70分。  
●電車／JR男鹿線羽立駅から無料シャトルバスで約30分。

入道湾にある北緯40°線のモニュメント。何個も並んでいて、全部の隙間を重ね合わせると、北緯40°線になるんだって。

岩手県盛岡市在住の幸田さん一家が、なまはげの里・秋田県男鹿市で「男鹿水族館 GAO」を見学しました。おにいちゃん、慧くん、弟の路広くんが「昨日から、ずっとワクワクしてました」と言えば、「子どもたちだけじゃないんですよ」と、おとうさんとおあきさん。家族みんなが心待ちにしていたそうです。

館内を熱心に見て回る幸田さんファミリー。特に路広くんは、愛嬌たっぷりの水草が人気のゴマフアザラシが一番のお気に入りです。5匹いるうちの1匹「イカク」(女の子)は、路広くんから離れようとしません。「僕」「イカク」が気に入ったよ」とアザラシとアイコンタクトをとりながらニッコリ。「イカク」も巧みな潜水能力で楽しそうに路広くんを追いかけます。

磯の生物に触れるタッチプールには、ナマコやヒトデなどの棘皮動物、軟体動物のアメフラシなど、さまざまな水生生物が勢ぞろい。ヒトデに触った路広くんは「ザラザラするけど平気だよ」。でも慣れない手触りに、何だか気持ち悪そうです。慧くんは、アメフラシの何ともいえない感触に困惑気味。とはいえ、幸田家の人々

は不思議な触り心地に魅せられ、しばらくその感触に浸っていました。

その後、特別に水族館のバックヤードを見学させてもらいました。ここには、魚の入った予備水槽がいくつも並んでいます。「さすがは水族館。見えない部分にも魚がいるんだね」慧くんは納得の表情。4人は餌やりにもチャレンジします。「ペレット」と呼ばれる固形餌を見て「魚たちは、こんな餌を食べるんだ!」イメージと異なる餌に、2人とも不思議そう。「ペレットは栄養素がバランス良く含まれた餌なんですよ」係の人からの説明を受け「へえ、そうなんだ」と一同納得。

子どもたちが大きくなると、親子で外出する機会が少なくなるもの。でも幸田家は違います。「家族での外出は大好き!」と、子どもたち。「家族が毎日顔を合わせ、1日の出来事を話し、コミュニケーションの場を設ける。たとえば5分でも絆は深まります」と、おあきさんは「幸田家のこだわり」を話してくれました。見学の間に言葉を交わし、いつでもコミュニケーションを取っていた幸田さん親子。何気ない会話が、親子の絆の深さを、4人から感じました。